所　員

〔専任教員〕

細川　周平　HOSOKAWA Syuhei
　役職：所長
　専門：日本音楽史

藤田　隆則　FUJITA Takanori
　役職：教授
　専門：民族音楽学

竹内　有一　TAKEUCHI Yuuichi
　役職：教授
　専門：日本音楽史・近世邦楽

武内　恵美子　TAKENOUCHI Emiko
　役職：准教授
　専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

田鍬　智志　TAKWA Satoshi
　役職：准教授
　専門：日本音楽史・民俗芸能

齋藤　桂　SAITO Kei
　役職：講師
　専門：音楽学・日本音楽史

〔客員教授〕

金剛 永謹

〔非常勤講師〕

デュラン､ステファン･アイソル　DURAN, Stephen Ithel
　担当：特別研究員
　専門：音楽学、日本・東洋音楽史、仏教音楽史

根本　千聡　NEMOTO Chisato
　担当：特別研究員
　専門：音楽学・日本音楽史

光平　有希　MITSUHIRA Yuki
　担当：特別研究員
　専門：音楽療法史・東西文化交流史

東　正子　HIGASHI Masako
　担当：情報管理員
　専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

〔非常勤嘱託員〕

齊藤　尚　SAITO Hisashi
　担当：学芸員・司書

森　万由美　MORI Mayumi
　担当：司書

〔異動のお知らせ〕

2023 年３月退職
　デュラン・ステファン・アイソル（特別研究員）
2023 年４月より新任
　竹内　直（特別研究員）

〔客員研究員〕

上野　正章　UENO Masaaki
　研究課題：近代日本における古典音楽の独学についての比較研究――雅楽と謡曲を中心に
　受け入れ教員：田鍬智志

遠藤　美奈　ENDO Mina
　研究課題：女性と英語による仏教音楽（讃佛歌）の研究
　受入教員：武内恵美子

大西　秀紀　ONISHI Hidenori
　研究課題：近代日本音楽の音源資料に関する研究
　受入教員：竹内有一

神津　武男　KOZU Takeo
　研究課題：人形浄瑠璃文楽の近世後期上演記録データベース更新に係る追補的資料研究
　受入教員：竹内有一

薗田　郁　SONODA Iku
　研究課題：浪花節芝居の生成と展開に関する研究
　受入教員：齋藤桂

高橋　葉子　TAKAHASHI Yoko
　研究課題：室町末期の謡における声調論と技法の研究

受入教員：藤田隆則

多田　純一　TADA Junichi

研究課題：近代日本における西洋音楽受容と演奏様式および形態に関する研究

受入教員：齋藤桂

出口　実紀　DTGUCHI Miki

研究課題：『龍笛要録譜』の研究

受入教員：田鍬智志

丹羽　幸江　NIWA Yukie

研究課題：室町期の謡の旋律法の研究と能の復曲活動

受入教員：藤田隆則

平間　充子　HIRAMA Mitsuko

研究課題：日本古代の儀礼音楽に関する研究

受入教員：武内恵美子

福本　康之　FUKUMOTO Yasuyuki

研究課題：聲明および賛美歌との関係から見る近現代日本仏教界における洋楽受容の実態

受入教員：武内恵美子

〔共同研究員〕

計 48 名（所員を除く外部研究員）。

氏名・所属先等は「活動報告 1」に掲載。

委託研究

テーマ：故山田全一氏蔵雅楽管楽器製作技術に関する資料目録の補遺と解題作成

委託先：出口実紀

担当者：竹内有一

（研究概要）2020 年度から伝音センターで寄贈受け入れの準備を進めている故山田全一氏蔵の雅楽管楽器製作技術に関する資料（楽器の製作用具・原材料・製作部品）について、2021 年度に委託し納品された研究成果を踏まえ、京都市の文化財指定を受けるために必要な情報を集約する概要目録・解題の作成を委託した。

（研究の背景、目的、特色）故山田全一氏（雅号：山田籟全、2019 年 12 月逝去）は、国の選定保存技術「雅楽管楽器製作技術」保持者であるが、後継者がいなかったため、生前の 2017 年に文化庁芸能部門、京都府文化財保護課、京都市文化財保護課が対応にあたり、製作用具の文化財指定により技術の保存に寄与が可能かどうか、検討が進められていた。氏の没後、製作用具および所蔵の楽器類の処遇について、ご遺族が京都市の北村政策監に相談され、文化芸術企画課が対応にあたり、文化庁、京都府文化財保護課、京都市文化財保護課等での情報共有を経て、京都市立芸術大学（伝音センター）が寄贈をうけることとなり（楽器の一部は購入）、製作用具を中心に大学への移送作業が 2021 年度に完了した。その寄贈資料の保全、公開、活用をはかるため、2021 年度委託研究により、目録台帳の作成に着手した。

目録に掲載される寄贈資料は、楽器の製作用具、楽器の原材料、製作された楽器部品など、数千点におよぶもので、2021 年度の委託研究で、資料の仮分類、名称の特定、寸法の計測、用途の考察、写真撮影、撮影データの整理などの数千点に及ぶ研究データが納品され、おおかたの資料のデータ登録が進められているが、資料点数が膨大のため、整理登録が完了していない部分もある。

よって、2021 年度委託研究からの継続性を重視し、既存目録データを補完する作業を実施することと、2022 年度内に当該寄贈資料の京都市文化財指定を受けるために必要な概要目録と解題を新たに作成することを計画した。

（成果の公開方法）作成した目録と解題は、資料管理用の資料台帳に組み込み、資料整理、データベース登録、登録番号付与等の業務において使用する。目録に記載された情報のうち、公開の必要性が高いものについては、伝音センター web サイト等で一般公開する予定である。なお、寄贈資料現物の公開展示等の実施も検討中である。

テーマ：『邦楽の友』記事データベースの修正・増補作業とオンライン公開作業」

委託先：竹内直

担当者：田鍬智志

本研究センター所蔵の『邦楽の友』記事データベー

スの修正・増補作業とオンライン公開作業を共同研究員の竹内直氏に委託した。これは前年度の『邦楽の友』記事一覧のデータベース作成に関する委託研究をオンライン公開するにあたっての修正・増補作業を含むものである。

『邦楽の友』は 1955 年（昭和 30 年）に創刊され、現在まで刊行されている邦楽専門雑誌である。『邦楽の友』は邦楽の様々なジャンルを取り扱う専門誌として創刊され、実際、特集記事だけでなく、音楽学者の連載や邦楽ラジオ番組の放送情報、演奏会評のほか、各派・団体の活動状況といった多岐にわたる記事が毎号掲載されている。専門誌としての幅の広さと、刊行時期の長さということから考えても、『邦楽の友』の記事は、戦後の邦楽界の状況を知る上で貴重な資料と見ることができる。しかしながら、これまで本誌に収録された記事をまとめたデータベースは見当たらず、国立国会図書館や CiNii のオンライン検索を用いても、『邦楽の友』所収の記事を検出することはできないのが現状であった。

こうした状況を踏まえた上で行った 2021 年度の委託研究では、本研究センターの所蔵する既刊号にもとづいて、昭和年間に刊行された『邦楽の友』に収録された記事の一覧を作成した。そして 2022 年度の委託研究では、作成した記事一覧をオンライン上に公開するにあたっての修正・増補作業を行った。

作業の中心となった、収録記事本体と作成した記事一覧の再照合では、主に記事名と掲載ページ数について慎重に確認した。また 2021 年度の委託研究では納品データとして提出していなかった口絵についても、雑誌を彩る貴重な資料の一つと見なし、対象とした全ての既刊号を洗いなおし、情報としてまとめた。成果物はエクセルファイル形式にまとめられた状態で 2022 年 9 月末に納品され、項目を整え、適切な形式にまとめた後、2023 年 3 月末に本研究センターのホームページ上に公開された。

最後に、本記事一覧の完成公開直前の 3 月 7 日に、『邦楽の友』を刊行する邦楽之友社代表取締役社長守谷幸則様が御逝去された。多年に渡って専門誌を編まれてきたそのご功績を偲ぶとともに、謹んで守谷様のご冥福をお祈りいたします。

公開講座

日本伝統音楽研究センター 細川周平所長就任記念講演

「邦楽調査掛 ー 保存と調査の 20 年（1907 ～ 1928）」

令和 4 年 7 月 28 日木曜日

内容

邦楽調査掛は「邦楽ノ調査及保存」を規約第一条に掲げ、東京音楽学校内に 1907 年（明治 40 年）に設立されました。今日に残る成果には恵まれませんでしたが、洋楽と邦楽の力関係と摩擦、保存（採譜と録音）の理念と実践、調査（歴史年表、地方芸能）の内容、伝統の定義と成果の公共化（演奏会、楽譜と年表本の出版、貴重図書展示会）など多くの点で、その活動は興味深いものです。

しかし多彩な方面で伝統の定義作りに関わった邦楽調査掛は、保存や継承については発想や実践には至らず、関東大震災後消えていきました。

この機関の挫折を大雑把に振り返りながら、伝統、古典、保存、調査、邦楽、国楽などの日本伝統音楽研究センターに必須の基礎用語について考え直したいと思います。

講演

細川 周平（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長）

受講料

無料

第 60 回公開講座（人間文化研究機構国際日本文化研究センターとの共催事業）

「お話と演奏 耳で感じるジャポニズム」

令和 4 年 10 月 8 日土曜日

概要

19 世紀初頭から西洋各国では、日本を題材にした小品が一枚刷りの大衆音楽楽譜（いわゆるシートミュージック sheet music）や楽曲集として出版され、それらの作品は多くの人びとに愛好されました。

日本情報が今より格段に少ない開国期前後、日本は西洋でどのようにイメージされ、音楽で描かれたの

か、またその魅力について、お話と演奏を通じて紹介します。

演奏

歌唱　佐々木 真衣（ソプラノ）

髙橋 花音（ソプラノ）

（以上２名とも 京都市立芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻２年）

ピアノ演奏　成瀬 はつみ

（京都市立芸術大学大学院音楽研究科日本音楽研究専攻２年）

ヴァイオリン演奏　山田 周（ヴァイオリニスト、音楽家）

ギター演奏　齋藤 桂（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター講師）

解説

光平 有希（国際日本文化研究センター特任助教、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター特別研究員）

細川 周平（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長、国際日本文化研究センター名誉教授）

受講料

無料

伝音セミナー

令和４年度 後期 第１回　Online 伝音セミナー
西村文庫の意義と魅力―日本伝統音楽研究の新出コレクション

令和４年 10 月 13 日　木曜日　午後２時 40 分～午後４時 10 分

講師：

竹内有一（日本伝統音楽研究センター教授）＋神津武男（日本伝統音楽研究センター客員研究員）

「西村公一文庫」は、西村公一氏（大阪府）が収集した新出コレクションです。当センターでは資料の寄託をうけ、目録化を進めています。「関西圏ならでは」のコレクションの特性や収集までの意外な道のりを紹介しながら、音楽研究における資料の収集・保存・公開の意義を問い直します。

令和４年度 後期 第２回　Online 伝音セミナー
京都市西京区が舞台となっている謡曲

令和４年 11 月 10 日　木曜日　午後２時 40 分～午後４時 10 分

講師：

藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）

京都芸大が位置する京都市西京区が舞台となっている能の作品に、小塩、西行桜、大江山、松尾、嵐山などがあります。それぞれの作品の物語、そして見どころ聞きどころを紹介しつつ、能の物語における現実の場所やその地名の大切さについて考えます。同時に、伝音センターに寄託されている西村文庫に所蔵される謡曲本も紹介する予定です。

令和４年度 後期 第３回　Online 伝音セミナー
因幡の麒麟獅子舞は古代の犬舞《蘇芳菲》か !?
― 犬から馬、獅子、そして麒麟になった舞

令和４年 11 月 24 日　木曜日　午後２時 40 分～午後４時 10 分

講師：

田鍬 智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

東大寺大仏開眼会でも舞われた《蘇芳菲（そほうひ）》は、親子の霊犬に扮した舞。平安朝に入り、《蘇芳菲》は「競馬節会」行幸の被りものキャラクターに採用され、馬のような姿に変更されます。競馬節会は日吉社や新日吉社においても「小五月会」として創始され、天台神道とともに地方に広まり、おそらく中世初頭頃には因幡の地に根付いたと考えられます。江戸期には御獅子とよばれ、近代に入り麒麟と呼ばれるようになりました。はたして麒麟獅子は《蘇芳菲》の生き残りなのでしょうか？

令和４年度 後期 第４回　Online 伝音セミナー
新しい能のプロデュースをめぐって

令和４年 12 月 08 日　木曜日　午後２時 40 分～午後４時 10 分

講師：

成瀬 はつみ（大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻２年）

能は古典曲ばかりでなく、「新作能」と呼ばれる新

しく創られた作品が数多く存在しています。野上記念法政大学能楽研究所から出版された『能楽研究叢書5』によると、2006年から2015年までに創られた新作能は60曲にも及んでいます。そのような新作能は、上演に至るまでどのようなプロセスを歩んでいるのでしょうか。新作能における制作に焦点を当てます。

※修士学位取得にかかる公開プレゼンテーションです。

令和4年度 後期 第5回　Online伝音セミナー
能楽を通じた日本伝統音楽の普及方法を考える

令和4年12月22日　木曜日　午後2時40分～午後4時10分

講師：

関本 彩子（大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻2年）

近年において、日本の文化、伝統を海外の人々に紹介する機会は増えています。しかしながら、日本音楽は、敷居の高い芸能としてのイメージがあり、その知識のある日本人は僅かです。このセミナーでは能楽に焦点を当てて、地域での能楽講座、英語で学ぶ能楽講座、動画による教養講座などを紹介します。社会や地域コミュニティの変化により、身近に伝統的な音を感じることが難しい状況になっていますが、この音風景をどのように復活させていくのか、現状を分析し可能性を探ります。

※修士学位取得にかかる公開プレゼンテーションです。

令和4年度 後期 第6回　Online伝音セミナー
能の謡における作曲法とは何か ―「野宮」をめぐって

令和5年1月12日　木曜日　午後2時40分～午後4時10分

講師：

荒野 愛子（大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻2年）

ゲスト：

シテ方宝生流　今井基

小鼓方大倉流　吉阪一郎

能の音楽は型の組み合わせによって構成され、その型は、地拍子と呼ばれる音楽理論に基づいています。この理論を理解することは、能を演奏したり鑑賞したりする上で大切なファクターとなります。本セミナーでは、能「野宮」の分析を通して、その謡の作曲法に焦点を当て、特徴的な旋律組織、リズム構造を見ていきます。また、現代における新しい能の作曲の可能性についても検討してみたいと思います。

※修士学位取得にかかる公開プレゼンテーションです。

令和4年度 後期 第7回　Online伝音セミナー
『箏曲集』から見る明治期の箏曲教育と洋楽受容

令和5年1月26日　木曜日　午後2時40分～午後4時10分

講師：

藤田神奈子（大学院音楽研究科修士課程日本音楽研究専攻2年）

1879（明治12）年に音楽教育の調査研究や教員養成を目的に開設された音楽取調掛は、「俗曲改良」「和洋折衷音楽」などを旗印に、日本古来の音楽から新たな音楽の創出を進めようとしました。そこで真っ先に対象になったのが箏曲です。日本で最初の五線譜による教育用邦楽譜『箏曲集』（文部省、1888年刊）を中心に取り上げ、明治期の箏曲とその教育は洋楽受容によりどう変化していったのか、実演も交えて解説します。

※修士学位取得にかかる公開プレゼンテーションです。

令和4年度 後期 第8回　Online伝音セミナー
民俗／民族音楽とポピュラー音楽

令和5年2月3日　金曜日　午後2時40分～午後4時10分

講師：

齋藤 桂（日本伝統音楽研究センター専任講師）

伊東 信宏（特別ゲスト・大阪大学教授）

民俗／民族音楽は、しばしば両価的なものとして扱われます。たとえば、それが属する文化のアイデン

ティティのよりどころとして重視されることもあれば、未発達・野蛮なものとして軽んじられることもあります。この民俗／民族音楽がポピュラー音楽と結びついた時、どのような音楽が生まれ、またそれはどのように受容されるのでしょうか。日本と欧州の事例から考えたいと思います。

令和４年度 後期 第９回　Online 伝音セミナー
日本音楽と「律・呂」の再考

令和５年３月１日　水曜日　午後２時 40 分～午後４時 10 分

講師：

デュラン、ステファン・アイソル（日本伝統音楽研究センター特別研究員）

日本音楽では「律・呂」という概念があり、日本音楽の音階の理論において「律・呂」より頻繁に参照される言葉はないでしょう。平安時代から、調を二つの種類「律」と「呂」に分け、それらが現行の雅楽や声明の中にも使われており、どの雅楽や声明の音楽理論書においても「律・呂」が登場します。本セミナーでは、日本音楽を聴きながら、その「律・呂」の概念のルーツについて、一緒に考えたいと思います。

令和４年度 後期 第 10 回　Online 伝音セミナー
雅楽の鼓動

令和５年３月９日　木曜日　午後２時 40 分～午後４時 10 分

講師：

根本 千聡（日本伝統音楽研究センター特別研究員）

貴族たちによる優雅な「管絃の遊び」――それが、わたしたち現代人のもつ「雅楽」に対する一般的なイメージでしょうか。このイメージは間違いではありませんが、実は、雅楽の一端を照らしているに過ぎません。今回は、雅楽で使用される打楽器を手がかりに、時に力強く、時に陰鬱とした、雅楽という“伝承”の知られざる一面を御覧いただきます。

図書室

利用案内

（1）収蔵資料と目録

・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展観などもおこなっています。（資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等）

・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

（2）図書室および収蔵資料を利用できる方

・本学の教職員（非常勤を含む）／学生

・調査研究のために利用を必要とされる方

（3）開室日時と休室日

・開室日時 毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時

・休室日 月・火・土・日曜日、「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間

※その他、必要に応じて、休室することがあります。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学外の方の利用は予約制となっています。申込方法等、詳細は web サイトでご確認ください。

（4）利用できるサービス

○閲覧

・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。

・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。

・複写サービスは行っていません。

○視聴

・当室所蔵の CD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

○レファレンスサービス

・毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時

○その他

・本学教職員（非常勤講師を含む）及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトを

ご覧ください。

（5）資料のデジタル化と web 公開

・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

・2022 年度の図書室について

新型コロナウイルス感染拡大防止による措置として、利用を学内者のみに制限していましたが、順次、利用制限を緩和しました。

4 月 7 日（木）～　卒業生の図書室利用を再開

12 月 21 日（水）～　学外の方の図書室利用を再開

いずれも予約制となります。申込方法等、詳細は web サイトでご確認ください。

また、閲覧室においては引き続き、カウンターに飛沫防止のビニールシートを設置、換気を徹底するとともに、利用者の方々にはマスクの着用、手指消毒、体温測定、図書室利用票の記入など感染防止対策をおこなっています。

展観

会場：新研究棟 7 階展示スペース

（1）「〈西村公一文庫紹介展〉近松半二の浄瑠璃本―全署名 62 作品と存疑作を辿る―」〈第一期〉〈第二期〉

〈第一期〉令和 4 年 11 月 9 日（水）～ 12 月 23 日（金）

〈第二期〉令和 5 年 1 月 4 日（水）～ 3 月 24 日（金）

内容：当センターで寄託を受けた「西村公一文庫」より、近松半二の署名を認める 62 作品の浄瑠璃本と存疑作について、成立・初演年代順に展示をしました。62 作品を一度に展示するのは困難なため、三期に分けて展示を行い、その第一期と第二期を今年度に行いました（第三期は次年度開催）。

新型コロナウイルスの影響で来校が困難な場合も鑑み、図録をオンラインで公開することで、来校しなくても展示を見ていただけるようにしました。

企画・構成：神津武男（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員）